



大和町地震防災マップ

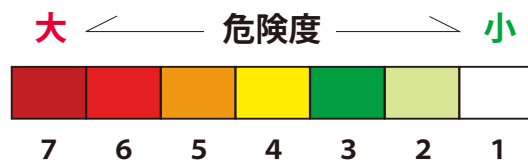
地域の危険度マップ

(長町 - 利府断層帯の地震の場合の想定木造建物被害分布図)

- この「地域の危険度マップ」は、地域が揺れやすさマップ（長町ー利府断層帯の地震）において示された強さ（震度）の揺れとなった場合に、地盤の液状化の影響を含めてどの程度の建物被害（全半壊相当）が生じるかを100メートルメッシュ毎に評価し、相対的に表示したものです。
- 地震の発生仕方によっては、被害の状況がこれよりも大きくなったり、小さくなったりすることがあります。
- 長町ー利府断層帯は、仙台市から利府町にかけて、ほぼ南北に延びる長さ約40kmの活断層です。約3000年に一度程度の割合で繰り返し地震を起こし、最後の活動は約2000年前ではなかったかといわれています。マグニチュード 7.1の地震を想定しています。



危険度
ランク

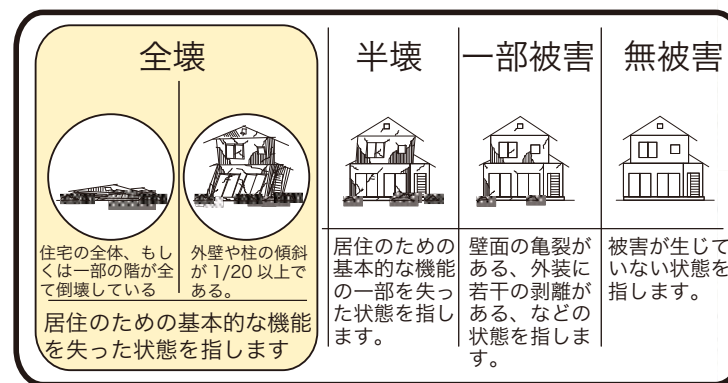


全半壊率に応じて被害の程度をランク分けしています（危険度ランク1～7）。危険度の数字が大きいほうが、被害が発生する可能性が高いことを示しています。

全半壊率
(%)

30 以上	20 ～30	10 ～20	7 ～10	5 ～7	3 ～5	0 ～3
----------	-----------	-----------	----------	---------	---------	---------

地震の揺れと液状化によって全壊もしくは半壊という被害を受ける可能性のある木造建物の割合（メッシュ内にあるすべての建物に対する割合）を示します。



地域の危険度マップでの被害は、建物が全壊及び半壊となる比率で表現しています。



このマップは、宮城県第三次地震被害想定調査の成果を再構成し、町内の建築物耐震改修を促進するために作成したものです。マップの基図は、国土地理院発行 25,000 分の 1 地形図を使用しています。

このマップについてのお問い合わせは、大和町役場総務まちづくり課 までお寄せください。